

# 地域のよさを実感し、地域に誇りをもつ 生徒の育成

～海府地区ガイドボランティアの活動を通して～

新潟県佐渡市立内海府中学校

〒952-3205  
新潟県佐渡市鷺崎918番地

<http://uchikaifu-js.sado.ed.jp/>

## 1. はじめに

当校の学区は、佐渡市の北端に位置し、佐渡一周線（県道45号線）に沿った海岸に8集落が点在している。学区民は、学校の教育活動に協力的であり、地域興しに力を注いでいる。特に、景勝地である大野亀でのかんぞう祭、鷺崎漁港での寒ぶり大漁まつりは、たくさんの観光客で賑わう。

平成23年度の全校生徒は、12名である。交通の便が悪いため、中学校卒業後、ほとんどの生徒が親元を離れ下宿して高等学校へ通うことになり、早期に自立せざるを得ない。

前年度までの取り組みとしては、カンゾウの保護を目的とした定植ボランティア、かんぞう祭での海府太鼓の演奏、寒ぶり大漁まつりでの募金活動など、地域の行事に積極的に参加してきていた。また、地域についての調べ学習を行い、地域住民の方を招いて、提言発表会も行っていた。

## 2. 研究の目的

この研究を始めるにあたり、生徒の実態について次の点を課題として捉えた。

- ・地域について詳しく知らず、地域のよさを十分に理解していない。
- ・地域の人以外と接する機会が少なく、コミュニケーションスキルを伸ばす機会が少ない。
- ・積極的に他者に働きかける力が乏しい。
- ・インターネットが使える環境にある家庭は、30%に過ぎず、ITC活用の機会が乏しい。

前述した実状とこれらの課題を踏まえ、「ITCを活用した人間関係形成・社会形成能力の研究」を研究の目的として、ガイドボランティア活動を行うことにした。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究の仮説

- ① ガイドブック、提示資料の作成
- ② ガイドボランティア活動

これらの活動を行うことにより、生徒は、地域の特色を学び、ガイドで繰り返し地域の特色を伝えることで、地域のよさを実感することができる。また、ガイド活動により、地域の人以外と接することができ、コミュニケーションスキルも向上すると考える。そして、タブレット型コンピュータを使用することで、ITC活用能力も向上すると考える。

## (2) 検証の方法

### ① 観察

活動への取り組み方。

### ② 自己評価

自分自身の活動の振り返りを行う。

### ③ 観光客の評価

観光客の方から、アンケートに答えて頂き、以後の活動の参考とする。

これらの3つのデータを分析し、「人間関係形成・社会形成能力」を生徒が身につけたかどうかを検証する。

## 4. 研究の内容

### (1) はじまり

平成22年5月28日（金） 1年生島内探訪

1年生島内探訪で小木へ行き、小木中学校の生徒がボランティアガイドを行っていることを知り、自分たちもやってみたいと言い出す。

### (2) 教師の準備

#### 【事前】

平成22年8月21日（土）

小木中学校の宿根木ボランティアを取材

平成22年8月22日（日）

緑の百年物語10周年記念事業「原生林親子探勝会」参加

平成22年8月24日（火）

理科教育センター地学研修会「大佐渡沿岸地域の地質と化石」参加

#### 【支援体制】

平成22年9月

佐渡市環境学習推進モデル事業に認定される。

平成23年3月

パナソニック教育財団の実践研究助成校に認定される。

平成23年3月

佐渡市教育委員会より、「佐渡学」研究指定校に認定される。

### (3) 活動の軌跡

平成22年9月8日（水）平成22年度第1回ミーティング

- ・1年生から上級生へ「一緒に活動をしませんか。」と呼び掛け、上級生も「ぜひ。」とすることで全校体制で活動を行うことになる。
- ・ガイドを行うまでに何が必要か、何をすべきかを検討し、「植物」「地学」「野鳥」「魚」について講師を招いて学習会を開き、ガイドブックを作成することにする。

- ・翌年の「かんぞう祭」でのデビューを目指す。
- ・パナソニック教育財団の実践研究助成に応募し、助成を受けられることになったら、タブレット型コンピュータを使用することにする。

平成22年9月10日（金）5・6限 植物教室

講師 北條睦夫先生

場所 大野亀

内容 佐渡の植物、大野亀の秋の植物

平成22年9月13日（月）2・3限 野鳥教室

講師 土屋正起先生

場所 中学校

内容 佐渡の野鳥、海府地区の野鳥

平成22年10月4日（金）5・6限 地学教室

講師 遠藤満久先生

場所 中学校、海府地区（フィールドワーク）

内容 佐渡の岩石、海府地区の岩石

平成22年11月12日（金）5・6限 魚教室

講師 多田好正様（地域の方）

場所 中学校

内容 海府地区の漁業・漁法

平成23年1月23日（日） 小中合同学習発表会

ガイドボランティア活動のデモテープを作り、地域へ活動を紹介した。

平成23年2月15日（火） ガイドブック（初版）、提示資料完成

この日からガイドの練習に入る。

平成23年3月10日（木） 第37回パナソニック実践研究助成（一版）の選考に通る。

これにより、タブレット型コンピュータ等を購入できることになる。

平成23年3月14日（月）5・6限 ガイド実習

場所 大野亀

内容 保護者、卒業生、小・中学校の職員を相手に、実際にガイドを行った。練習を重ねれば、できそうだという実感が沸いた。

平成23年6月1日（水）平成23年度第1回ミーティング、ガイドブック（第2版）完成

- ・平成23年度のリーダー選出

- ・3月の実習の反省と課題

平成23年6月2日（木）5・6限 植物教室

講師 北條睦夫先生

場所 大野亀

内容 佐渡の植物、大野亀の春の植物



現地大野亀での植物教室



ジオパークの計画を推進する講師による演習

平成23年6月3日（金）5・6限 練習会

場所 大野亀

内容 新しいガイドブックで練習

iPad を購入し、使用

課題 iPad の画面が反射で見えづらい。

iPad の写真の並びが良くない。

平成23年6月9日（木）ガイドボランティア活動  
(佐渡学研究会)

場所 大野亀、内海府中学校

お客様の数 12組

内容 生徒のガイドに対してアドバイスをいただく。

テレビ局、新聞社も招き、PR をしてもらう。

研究会では、これまでの取り組みを説明する。

成果 熱い励ましの言葉を参加者の方々から頂き、生徒のモチベーションは高まった。

テレビの放映、新聞に載ることにより、周囲からも声援を受けるようになった。



練習する生徒に集まる観光客



佐渡学研究会でガイドをする生徒たち

平成23年6月10日（金）第2回ミーティング

- ・資料の後にガイドの台詞を貼って、紙芝居形式にすることにする。
- ・今回は、iPad の使用は見送ることにする。

平成23年6月12日（日）ガイドボランティア活動

場所 大野亀（かんぞう祭）

お客様の数 29組

課題 午前中は、ステージ部門の出し物

に出演する生徒が多かったので、午後から行った。しかし、午後になると団体のお客さんが減ってしまった。来年は、午前中からローテーションでガイドを行う。



〈お客様アンケートより〉

- ・分かりやすく、丁寧に教えていただいた。表情も自然で、プロのガイドを感じさせた。
- ・説明の地点だけでなく、歩きながらの佐渡やこの地域についての話は、参考になる点が多かった。
- ・一生懸命説明をしていただき、ありがとうございました。説明でよく分かりました。今後がんばってください。

〈生徒の記録用紙より〉

- ・楽しかった。ガイドした方がおもしろい方だったので、逆にいろいろ教えてもらった。
- ・もっとすらすら言えるようにすれば良かった。歩くペースを合わせるべきだった。

・植物の名前で、答えられないものがあった。

平成23年6月17日（金） ガイドボランティア活動

場所 大野亀

お客様の数 12組

内容 フィッシャーズホテルにトレッキングを主にしたツアーのお客さんが団体で来られるという情報が入ったので、ガイドをさせてもらうことにした。お客さんは40名ほどいらしたが、グループになるので、生徒12名が全員ガイドをするには少なかった。このツアーは、佐渡の観光ツアーとしては人気のあるツアーなので、今後も大切にしたい。

平成23年11月13日（日） 小中合同学習発表会

場所 内海府小学校

内容 例年、総合的な学習の時間の集大成として、小学校と合同の学習発表会を地域の方々を招待して行っている。その場で、「海府地区ガイドボランティア活動」について発表を行い、地域の方々に活動の報告をした。

平成23年11月21日（月） 海洋生物教室

場所 内海府中学校

講師 安房田 智司 博士（新潟大学理学部附属臨海実験所）

内容 佐渡の海と海洋生物

平成23年11月28日（月） ガイドブック（冬）完成

平成23年11月30日（水） ミーティング・練習会

平成23年12月 1日（木） iPad 提示資料完成

平成23年12月 2日（金） ミーティング・練習会

平成23年12月 4日（日） ガイドボランティア活動

場所 鷺崎漁港（寒ぶり大漁まつり）

お客様の数 27組

内容 iPadの画面の反射を防ぐため、反射防止シートを貼り、ガイドを屋内で実施した。あら汁を食べているお客さんの席へ行き、声を掛けることにした。生徒は、出し物に出る者もいたので、1



グループ4人の3グループに分け、1グループ50分ずつガイドを行った。一人、2～3組のお客さんに説明することができた。当日の活動の様子は、新聞、テレビで報道され、生徒の大きな励みとなった。

#### (4) 活動後の生徒アンケート結果

ア この活動で、自分の佐渡についての知識は深まったと思いますか。

深まった10名 少し深まった2名 あまり深まらなかった0名 全然深まらなかった0名

イ この活動で、人と接する能力が伸びたと思いますか。

伸びた7名 少し伸びた4名 あまり伸びなかった1名 全然伸びなかった0名

ウ この活動の感想。

「ガイドを通していろいろな方と触れ合うことができ、とても楽しかった。お客さんの質問に答えたり、逆に教えてもらったりして、この地域に関して理解が深まったと思う。ガイドをしている時にお客さんが『へえー。』と驚いたり、笑顔で聞いてくれるととても嬉しかった。今後は、お客さんのアンケートの内容を次回に生かし、もっとガイドを楽しんでもらいたいと思った。」

「この活動を通して良かったことは、海府の良さに気づけたことです。普段見ている海も調べてみると分からないことがたくさんあったりして、勉強になりました。また、ガイドでたくさんの方々と接したので、初対面の方とも緊張せずに話せるようになりました。観光客の方々からも『ぜひ来年も。』とおっしゃっていただいているので、自分達が卒業してからも、伝統として続けていって欲しいと思います。」

## 5 研究の成果と今後の課題

海府地区ガイドボランティア活動は、当初の目的を達し、生徒のコミュニケーションスキルを伸ばすことができ、人と接することに対する自信へとつながった。また、ガイドを行うために、地域について多くを学び、人に教えることによって、学んだ知識を定着させることができた。さらに、地域の行事に主体的に関わり、地域に貢献しているという実感ももつことができた。

タブレット型コンピュータも、幾多の問題点をクリアして、ガイド活動で使用することができ、生徒は最新のITC技術を活用することができた。

来年度も、今年の流れをほぼ踏襲していく。海府地区ガイドボランティア活動は、春季と冬季の2つのパターンで行う。本番前に学習会と練習会を行い、知識の習得とガイドのスキルの補強を行う。

今後の課題としては、生徒や職員が変わっても長く引き継いで活動していける体制作りである。基本的なマニュアルと、それを創意工夫して実践していける体制を来年度は確立する必要がある。